

第20回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日時 昭和52年8月17日(火) 午後2時～4時
2. 場所 宇宙開発委員会会議室
3. 議題 昭和53年度における宇宙開発関係経費の見積り方針について
4. 資料
委20-1 第19回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨
委20-2 昭和53年度における宇宙開発関係経費の見積り方針について案

委20-1

第19回宇宙開発委員会（定例会議）

議事要旨

1. 日時 昭和52年8月10日(水)
午後2時～4時
2. 場所 宇宙開発委員会会議室
3. 議題 (1) 宇宙開発計画の見直しに関する技術部会
及び計画部会の審議結果について（報告）
(2) 技術試験衛星Ⅱ型（ETS-Ⅱ）による
電波伝搬実験について（報告）
4. 資料
委19-1 第18回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨
委19-2 宇宙開発計画の見直しに関する技術部会の審議
結果について
委19-3 「宇宙開発計画（昭和51年度決定）」の見直
しに関する計画部会の審議結果について（報告）
委19-4 技術試験衛星Ⅱ型（きく2号）のミリ波伝搬実
験（速報）

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理

委員

委員

委員

網 島 毅

吉 謙 雅 夫

八 藤 東 福

斎 藤 成 文

説明者

郵政省電波研究所長

衛星研究部長

関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局長

長官官房参事官

通商産業省機械情報産業局次長

工業技術院総務部長

運輸省大臣官房参事官

気象庁総務部長

海上保安庁総務部長

郵政省電波監理局審議官

建設省大臣官房技術参事官

郵政省電波監理局

電波研究所企画部長

電波研究所企画部長

宇宙開発事業団

糟 谷 績

石 田 享

園 山 重 道

佐 伯 宗 治

水野上 晃 章

（代理：角田）

沢 井 新一郎

（：高橋）

沼 越 達 也

（：上田）

高 井 重 寿

（：高谷）

鈴 木 登

（：佐藤）

門 田 博

（：中津川）

細 川 弥 重

（：渡辺）

九 里 茂

甕 昭 男

田 尾 一 彦

飯 塚 裕 久

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

伊 藤 栄 一

〃 宇宙国際課長

三 浦 信

〃 宇宙開発課長

雨 村 博 光 他

6. 議事要旨

(1) 前回議事要旨

第18回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨について

4頁7行目網島委員の発言中、「この長期ビジョン特別部
会報告を了承する。」とあるのを、「委員会としては、この
長期ビジョン特別部会報告を了承することとしたい。」に改
めることとされたのち、確認された。

(2) 宇宙開発計画の見直しに関する技術部会及び計画部会の審
議結果について（報告）

吉識雅夫技術部会長から資料委19-2に基づいて、また、
網島毅計画部会長から資料委19-3に基づいて、それぞれ
説明が行われたのち、報告が了承された。

(3) 技術試験衛星Ⅱ型（ETS-Ⅱ）による電波伝搬実験につ
いて（報告）

郵政省電波研究所の糟谷績所長及び石田享衛星研究部長か
ら資料委19-4に基づいて説明が行われたのち、以下の質
疑応答が行われた。

網島：今までの予備実験の状況から判断して、ミリ波通信は実
用になりうると思うか。

石田：ミリ波通信は、降雨減衰などの欠点があるものの利点が極
めて多く、今回の実験成果からも実用化の見通しは明るい。

八藤：外国のミリ波通信実験の状況はどうか。

石田：米国では、ATS-5により32GHzで実験を行つた実
績があるが、ETS-Ⅱの34.5GHzが一番高い。

斎藤：実験終了後、衛星はどうするのか。大学等希望する所があ
れば使用させることは考えられないか。

糟谷：アンテナさえあれば、電波研の実験終了後使えないことは
ないと思う。

委20-2

昭和53年度における宇宙開発関係経費の 見積り方針(案)

昭和52年8月17日
宇宙開発委員会
決定

昭和53年度における宇宙開発関係経費の見積りは、下記の方針に基づいて行う。

1. 科学観測上の必要から第4号科学衛星(CORSA-b)に観測機能を追加し、打上げ時期を半年繰り下げて昭和53年度1～2月期に打ち上げることに伴い、この衛星の成果をもとに開発を行う第8号科学衛星(ASTRO-B)の打上げ目標年度を昭和56年度から昭和57年度に変更する。
2. 日本測地原点の確立、国内測地三角網の規正、離島位置の決定等を行うことを目的とする測地衛星(GS)については、現在の開発研究の進捗状況等にかんがみ、昭和57年度に打ち上げることを目標に引き続き開発研究を行う。

また、本衛星の打上げ用ロケットとしてNロケット7号機の開発を行う。

3. 海表面の色及び温度を中心とした海洋現象の観測を行い、地球観測のための人工衛星に共通な技術の確立を図ることを目的とする海洋観測衛星1号(MOS-1)について、所要の開発研究を行う。

4. 宇宙空間を利用した材料実験システムを確立するため、材料実験用小型ロケットとしてTT-500型ロケットの一部改修及び搭載実験装置の開発を行うとともに、さらに軌道実験用モジュールの研究を行う。

5. 静止スピン型衛星を用いる各種宇宙システムに共通して使用できる標準型の衛星を開発することを目的とした衛星の研究を行う。

なお、この衛星については、海上通信衛星システム及び航行衛星システムの実験を行いうる多目的衛星として関係の研究機関が協力して研究を行うものとする。

6. ロケットの性能向上及び国産化の促進を図るため、エンジンのアブレーティブ化その他の所要の研究を行う。
7. 上記以外については、「宇宙開発計画(昭和51年度決定)」を推進する。